

キャラクター名 リーデン・シヴェラティナ プレイヤー名  

<b>種族</b>	ダークトロール	<b>種族特徴</b>	暗視/弱体化/体躯/弱点(魔法+2)		
<b>生まれ</b>	拳闘士	<b>性別</b>	男	<b>年齢</b>	21歳
<b>冒険者Lv</b>	11	<b>経歴</b>	人族の親から生まれた先祖がえり		
<b>経験点</b>	0		人族に一目置かれている 人族の王に仕えている		

<b>技</b>	10	能力値	<b>A-F</b>	<b>成長</b>	<b>他修正</b>	能力値	ボーナス	<b>技能</b>	Lv.	<b>技能</b>	Lv.
		器用度	9	7		26 + 2	4				
<b>体</b>	14	敏捷度	6	1		17 + 2	3	プリースト/グレンダール	7		
		筋力	10	10		34 + 2	6	エンハンサー	6		
<b>心</b>	6	生命力	18	13		45	7	バード	1		
		知力	3	5		14	2	アルケミスト	1		
		精神力	5	3		14	2				

<b>戦闘特技</b>	
追加攻撃	220 p
投げ攻撃	225 p
カウンター	2120p
鎧貫き	1B39 p
武器習熟/格闘	221 p
防具習熟/非金属鎧	222 p
マルチアクション	2125 p
頑強	218 p
超頑強	1B29 p
牙折り	1B36 p
	p

<b>言語</b>	会話	読文
巨人語	○	○
交易共通語	○	
汎用蛮族語	○	○
魔動機文明語	○	○

<b>練技/呪歌/騎芸/賦術</b>	
キャッツアイ	
マッスルベアー	
ガゼルフット	
ビートルスキン	
デーモンフィンガー	
ジャイアントアーム	
レクイエム	
クリティカルレイ	

<b>技能</b>	技能 レベル	基本 命中力	基本 回避力	基本追加 ダメージ
ファイター	0			
グруппラー	11	15	14	17
フェンサー	0			
シューター	0			

<b>鎧と盾</b>	必要 ランク	筋力	回避力	防護点
鎧	リュクスベスト	8	2	3
盾				
その他補正(防具習熟/回避行動 etc)				2
回避技能	グруппラー	合計値	16	7

<b>武器</b>	用法	必要 筋力	命中 修正	命中力	C値	追加 ダメージ	威力	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
パワーリスト+1 <small>魔法の武器 イグニタイト加工 オーダーメイド品 必筋+3</small>	1H	8	1	2d+ 17	9	19	18										
投げ <small>グруппラー専用</small>	2H	0		2d+ 15	12	18	0										
				2d+													
				2d+													
				2d+													
				2d+													
				2d+													

<b>制限移動</b>	<b>通常移動</b>	<b>全力移動</b>	<b>回避</b>	<b>防護点</b>	<b>HP</b>
3 m	26 m	78 m	2d+ 16	7	108
<b>魔物知識/弱点</b>	<b>先制力</b>	<b>生命抵抗</b>	<b>精神抵抗</b>	<b>MP</b>	
2d+ 0/X	2d+ 0	2d+ 18	2d+ 13	35	

<b>魔法技能</b>	Lv.	魔力	<b>魔法技能</b>	Lv.	魔力
神聖魔法	7	9			

<b>装備品</b>	<b>説明</b>
頭 <b>バンダナ</b>	付けないと落ち着かない系トロール
耳	
顔	
首 <b>聖印</b>	グレンダールの聖印。炎と剣。
背中 <b>英雄のマント</b>	
右手 <b>怪力の腕輪</b>	壊すと筋力+14
腰 <b>真・ブラックベルト</b>	防護+2
足 <b>韋駄天ブーツ</b>	移動+5
その他 <b>宗匠の腕輪</b>	壊すと器用+14

<b>装備品</b>	<b>説明</b>
左手 <b>小熊の爪</b>	マッスルベアーの効果+1

<b>その他メモ</b>	自動失敗 チェック
★一般技能 … 兵士:5 聖職者:5	□□□□⑤
とある人族の王の元で仕えるいち戦士の青年……であるが、その身はダークトロールである。 同族の例に漏れず、戦士或いは武人然とした気質。強きを好むが弱者も捨てず、護るべき対象。 誠実であり穏やか、何処かのほんとする気抜けた一面も。悩みは、交易共通語がやや苦手な事。	□□□□⑩
	□□□□⑮
そんなダークトロールで在りながら、いち人族(名誉人族)として在る彼の出自は複雑なもの。 彼は、人族の両親の間に生を授かった子供。恐らく、両親の何れかの先祖にそのケがあったのか。 通常であれば、その場で殺されてもおかしくないのだが…彼は殺されなかった。愛されたのだ。	□□□□⑳
	□□□□㉕
	□□□□㉑
両親は既に年老いており、その中でやっと誕生した第一子。それを殺す事など、到底出来なかった。	□□□□㉕

